

大正2年に生まれた新美南吉は、令和5年で生誕110年を迎えます。これを記念して、半田市立博物館では南吉の童話と昔の道具をテーマとした企画展を開催します。

新美南吉は、田舎の暮らしを書いた作品を多く残しました。それらの話に登場する暮らしの道具や、仕事道具が物語に深い印象を与えています。また、なかには一つの道具を主題として書かれた話もあり、物語において重要な役割を果たします。

本展では童話に出てくる道具を中心に展示し、用途や当時の暮らしの様子などを紹介します。話に登場する道具を実際に見て、その背景を知ることによって南吉童話により親しみをもっていただけたら幸いです。



ランプは一つ一つがしずかに
まじろがず、燃え、あたりは
昼のように明るくなった。

「おじいさんのランプ」より



旅人から火をかり、みんなの
ちようちんにつけるだろう。
長いちようちんやまるい
ちようちんにつけるだろう。

「ひとつの火」より



ごんはじれつたくなって、
頭をびくの中につっこんで、
うなぎの頭を口にくわえました。

「ごんざつね」より



あのおどけたような、また
悲しいような声をきくと木之助は
なんともいえないうっとりとした
気持ちになるのであった。

「最後の胡弓弾き」より

関連イベント

昔の道具を使ってみよう!

普段はあまり見られない昔の道具を
実際に使う体験ができます。

- ◆ 日時 7月29日(土) 13:30~15:30
- ◆ 場所 半田市立博物館2階 第1会議室
- ◆ 申し込み不要

新美南吉スタンプラリー

アプリを使ったデジタル
スタンプラリーです。
右記のQRコードからダウン
ロードしてご参加ください。



- ◆ 期間 7月30日(日)~11月11日(土)
- ◆ 問合せ 安城市役所アンフォーレ課
まちなか連携係(0566-76-6111)
月・水・木・金(祝除く)8:30~17:15